

コマルケシゲンゴロウ

Hydrovatus acuminatus Motschulsky
コウチュウ目・ゲンゴロウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

本種は平成9年と27年に本県から記録された。現在正式に記録された県内産標本は数個体のみである。

分 布

北海道を除くほぼ国内全域に分布する。しかし、県内での記録は数例のみである。

種の特徴

体長2.0～2.5mmの小型ゲンゴロウ類の一種。同属近縁種マルケシゲンゴロウと比較すると体型はやや細いが、外見での区別は困難。確実な同定は雄交尾器を見る必要がある。池沼や湿地に生息する。成虫は水生動物の死骸等を食う。

生息を脅かす要因

池沼や湿地の消失、侵略的外来種の定着、農薬散布による生息環境悪化等が挙げられる。

参考文献 下野谷（1999）、森・北山（1993）、渡部（2015）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
										○		○					

ヤマトセイボウモドキ

Cleptes japonicus Tosawa
ハチ目・セイボウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

奥越地方の山地を中心に精力的に調査が行われたが、今回確認できたのは1地点のみ。県内では本種の生息環境が著しく悪化していると判断し、前回の絶滅危惧Ⅱ類より絶滅危惧Ⅰ類へランクアップした。

分 布

本州（青森、栃木、長野、石川、福井県）に分布。県内ではこれまでに大野市小池、赤兎山、田茂谷、前坂、平家平で記録されている。今回は大野市下山で確認できたのみ。

種の特徴

体長6mm内外。山岳地帯の落葉広葉樹林に生息する。詳しい生態は明らかでないが、他のセイボウモドキと同じように、ハバチの幼虫に寄生すると考えられる。成虫は6～9月にかけて、アブラムシの甘露が落ちて黒ずんでいるクマザサ等の葉上に見られる。

生息を脅かす要因

山岳地帯の落葉広葉樹林の伐採、スギ、ヒノキ等の植林の拡大により宿主のハバチ類の個体数が減少すると、本種の生存にとって脅威となる。

参考文献 福井県自然保護課（2002）、羽田（2004）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

ミヤマツヤセイボウ

Philoctetes monticola (Tsuneki)
ハチ目・セイボウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】情報不足

選定理由

既知の生息地を含め、精力的に調査が行われたが、今回の調査で確認できたのは2例のみ。もともと少なかった生息確認地点数がさらに減少したことから、依然本種の生存は危機的な状況にあると判断し、絶滅危惧Ⅰ類のランクを維持した。

分 布

本州（青森、山形、宮城、福井県）に分布。県内ではこれまでに大野市赤兎山、谷山、福井市一乗谷で記録があった。今回は大野市大谷ならびに足羽山で生息が確認された。

種の特徴

体長7～10mm。ツヤセイボウ類の中では大型で、体全体が緑色を帯びた金属光沢を持つ。落葉広葉樹林に生息し、成虫は6～7月頃、アブラムシの甘露や落葉広葉樹の梢や若葉に飛来する。アリマキバチ類やイスカバチ類に寄生する。

生息を脅かす要因

落葉広葉樹の伐採、スギの植林による植生変化、薪や丸太等の置き場の減少が脅威となる。

参考文献 福井県自然保護課（2002）、羽田（2005a）、室田（2007）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	○